



不登校が改善しない事例にありがちな、保護者のよくない対応とは？ プラス + 新学期に向けて、この2月にやっておきたいこと

- ❖ 「いろいろやってるんだけど、子どもの不登校に改善の様子が見られない」という、保護者さんからの声を伺うことがあります。

不登校は学校環境も含め、多様な視点からとらえることが大切なのですが、保護者の視点から分析すると、・・・
理由として考えられることが3つあります。



- ❖ 1つ目は、愛着関係が十分に深まっていないことです。(最重要)

愛着関係は、・・・

一緒に生活をしていけば、自然に育まれるというものではありません。

毎日の、安心・安全、共感、愛情、承認、支持、保護といった情緒的な関わりの積み上げの中で築かれていきます。

- ❖ もし、愛着関係が十分に育まれていないと、
子どもは、・・・

- ・人を安全な存在だと認識することができなくなる
- ・人を頼ったり、信頼したりできなくなる
- ・人とよりよい関係を築くことがむずかしくなる
- ・自己肯定感が低く、自信がもてなくなる
- ・・・・といったネガティブな傾向を示すようになります。



このような心理的状況は、緊張や不安も生じやすいため、

子どもは、学校へ登校することがむずかしいケースに移行しやすくなるのです。

逆に、このような心理的状況が改善されていけば、学校に行けそうな感じがしますね。

✿そこで、「安定した愛着関係が、子どもの成長にいかに関係するか」を知ることができ
る事例を、1つ紹介しておきたいと思います。

1989年、ルーマニア革命によってチャウセスク政権が崩壊しました。
チャウセスク政権は、国の人口を増やすため、
人工中絶を法律によって厳しく禁止していたのですが、
政権崩壊によって、そのような社会を支えるしくみも一気に崩れてしまいました。
それで、育て親を失った、たくさん子どもたちが
「ストリートチルドレン」として国内にあふれたのです。
(右写真)



幼少期に親に育てることを放棄され、
愛着の問題を抱えて育った子どもたちは、
その結果、・・・

自閉症的傾向を示したり、人間関係がうまく築けなかったりするなど、
心理的・対人的な深刻な問題を抱えてしまうことになったのです。

✿では、**具体的に**、愛着関係をどのように深めていけばよいのかということになりますが、
もし、お困りの方は、・・・

不登校改善に向けた「3つのアプローチ」を、どうぞ参考になさってください。
無料でダウンロードできます。(改訂版はしばらくお待ちください)

https://counseling-clover.jp/pdf/free_repo01.pdf

✿2つ目は、子どもに変化があるのにそれに気づかず、それをきっかけとした、
よりよい言葉かけや関わり方が十分機能していないことです。(重要)

例えば、保護者さんに、子どもさんの様子を伺うと、・・・

「相変わらずです」
「これといった変化はありません」
と返ってくるのがよくあります。

しかし、よくよく伺ってみると、
「**そう言えば**、」で始まり、・・・



- ・「勉強をもう少し頑張ってみようかな」と話したことがあります
- ・こちらから頼まなくても、夕食の食器を全部洗ってくれました
- ・買い物に、よくついてくるようになりました
- ・（普段はあまり手伝ってくれないのに）冬用タイヤの交換を手伝ってくれました
- ・これと言った話がなくても、わたしのいる居間に来て過ごす時間が増えました
- ・自分が興味をもっていることについて、よく話すようになりました
- ・反抗したり口ごたえをしたりすることが多くなりました

・・・・・・・・といった様子を伺います。

小さなことかも知れませんが、

実は、これらは皆、変化です。

変化とは、学校や勉強や登校に関することだけではありません。

心が変化しているから、行動が変化しているのです。



- ✿このような変化を、日常の生活の中から敏感に感じ取り、子どもに共感したり、承認したり、愛情を注いだりする等の適切な対応が大切なのです。このような関わりのことを、「**感受的対応**」とわたしは呼んでいます。

- ✿3つ目は、愛着行動の手を緩めることです。(重要)

ある子どもさんが、ある日、突然不登校になりました。

様子を詳しく聞いてみますと、

お母さんが、

「あなたの気持ちがよく分からないから、お父さんに聞いてもらって」

と言われたそうで、・・・

子どもさんは、次の日から学校に行けなくなったようなのです。

この事例は、「子どもの気持ちが分かる、分からない」だけの問題にとどまりません。

愛着関係の本質に関わるきわめて重要な問題です。

❖お母さんとしては、何気なく言われたことかも知れませんが、・・・

お母さんの言葉は、

「あなたの心を理解しようと努力することは、したくありません」
といった、子どもを突き放す強烈なメッセージを含んでいます。

問題は、「愛着行動の手を緩めること」にとどまっていません。

子どもはこのような対応に、強い不安を感じるものです。



❖子どもさんが、お母さんに話しかけたその本意は、

自分の気持ちを、お父さんではなく、お母さんに理解してほしいからです。

心を支えが不十分・不安定な子どもさんは、前へ進めなくなります。

❖実は、似たようなお話を伺うことがあります。

より重要な問題は、そのことに、保護者が気づいておられないことが結構あることです。

100%完全な人間はいません。

「あなたのことは100%理解できないかも知れないけど、

あなたの心に関心があるの、いっしょに考えようよ、あなたといることが幸せです、
あなたの心を理解する時間や努力は、とても大切だと思っているの・・・」

❖そのような気持ちで子どもと関わっていくことが、愛着関係をより深め、より安定させ、
そして、それが、子どもが前に進む原動力になっていくのです。

安定した愛着関係が築かれていくと、・・・

子どもは親から離れて探索行動を始めます。その延長線上にあるのが再登校なのです。



プラス

+ 新学期に向けて、この2月にやっておきたいこと

❖この2月～、4月の新学期に向けてやっておきたいことがあります。

(これは、学校に対する緊張や不安が比較的軽いケースを想定してお話しています)

それは、新学期に向けての、子どもさんの希望や不安を聞くことです。

例えば、・・・

- ・ 同じクラスになりたい友だち
- ・ 同じクラスになりたくない友だち（いじめっ子、相性のよくない子など）
- ・ 新担任の先生、教科担任の先生
- ・ 学習のおくれや宿題の提出
- ・ 教室の座席位置、班活動のメンバー
- ・ 苦手教科への学習参加（不登校の子どもは、体育などの実技が苦手な傾向にあります）
- ・ 部活内の人間関係
- ・ ・ ・ ・ など、いろいろあると思います。

✿子どもさんの希望や不安を聞き共感することは、
学校への緊張や不安をやわらげるという一定の効果をもたらします。
また、愛着関係を深めるよい機会ともなります。

✿ちょうどこの2月は、新クラス編成に向けて学校が動き始める時期です。
もし、子どもさんに聞いたことを、学校に伝えてもよいというOKがあれば、・・・
2月中に学校へ伝えておきたいですね。
(子どもの了解のないのに勝手に動くことはよくありません)



✿結果として、再登校へ結びつかなかったとしても、
このように登校しやすい環境を整えていく営みは、とても大切なことだと思います。
とりわけ、学校生活の大きな節目なる時期には、
新学期に向けて、希望や期待が膨らむような学校情報の提供をすることと同じくらい大切
だと思います。

実際そのような取り組みをされ、4月からの再登校につながった事例もありました。
もとより、その事例の場合、約6ヶ月にもわたる愛着関係を深めていく保護者の粘り強い
取り組みがあったことは言うまでもありません。

文責 西村明倫
一般社団法人日本 TFT 協会セラピスト
公益社団法人日本心理学会認定心理士
メンタル心理カウンセラー